

研究・調査報告書

報告書番号	担当
217	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
<p>A pilot study of oxcarbazepine versus acamprosate in alcohol-dependent patients. アルコール依存症患者におけるオキサカルバマゼピンとアカンプロサートの効果比較の試験的研究</p>	
執筆者	
Croissant B, Diehl A, Klein O, Zambrano S, Nakovics H, Heinz A, Mann K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 30(4): 630-635 (2006)	
キーワード	
アルコール依存症、オキサカルバマゼピン、アカンプロサート、禁断症状	
<p>要 旨</p> <p>目的: この試験的研究は、アルコール依存症患者の治療に新規抗てんかん薬を使用する基本的データを得るために計画された。オキサカルバマゼピン (OXC) は電位依存性 Na チャネルをブロックする。OXC の代謝物は線条体と大脳皮質神経の高閾値活性化型 Ca 電流を低下させ、皮質線条体シナプスでのグルタミン酸性神経伝達を低下させる。この抑制は、アカンプロサート (ACP) が NMDA 受容体を調節してグルタミン酸性神経伝達の阻害を生じると類似しており、アルコール依存症治療の点から興味深い。さらに、OXC は双極性感情障害で気分安定効果を示す。我々は禁酒してから間もないアルコール依存症患者での再発防止における OXC と ACP の効果を比較した。</p> <p>方法: 30 人の急性解毒治療中のアルコール依存症患者で、OXC の効率と安全性について ACP を対照として、24 週間の無作為化、並行群間、非盲検、臨床試験を行った。OXC を服用した患者が (再発せずに) 禁酒していた期間の長いものを "survival" (生存) として (Kaplan-Meier) 生存分析を行った。評価項目は最初の再発 (禁酒の停止) までの時間と二次的な付加項目で評価した。</p> <p>結果: 禁酒の後、OXC 服用患者が重度の (依存状態) 再発までの時間と最初にエタノールを (再) 摂取した時間は ACP 服用患者より長くはなかった、両方の群での断酒継続患者は再発患者よりも有意に低い強迫性飲酒スケール (ドイツ改定版) を示した。OXC 服用患者がアルコールを摂取した際でも不都合な効果は生じなかった。</p> <p>結論: 本研究での結果は、OXC によるアルコール依存症の再発防止について、さらに適切な対象標本で検討する価値があることを示している。注目すべきなのは、OXC は患者がアルコールを摂取している際でも服用に関して良好な耐容性があることである。このように、薬物療法を基本とした再発防止において、OXC は ACP やナルトレキソンが有効でない患者や、感情的な負い目を持つ (うつ様な心理状態にある) 患者に対する代替治療薬として有望であると思われる。</p>	